

資料2

テーマ1 学校の規模・配置において検討すべきことについて 【論点Ⅱ】

テーマ1 学校の規模・配置において検討すべきことについて（論点Ⅱ）

論点Ⅱ

学校の再編を検討する場合には、「小規模校基本方針」の選定基準の見直しなども含めて、どのような点に留意すべきか

（参考）堺市の現状

※児童数は直近10年間で約17%減少、生徒数は直近10年間で約12.7%減少

※小学校の小規模校は33校（約35.9%）、中学校の小規模校は20校（約46.5%）

※1中学校区1小学校は4校区（約9.3%）

⇒小学校の状況・・・小規模：2校、標準規模：2校

※1中学校区2小学校は26校区（約60.5%）

⇒中学校区内の小学校の状況

小規模&小規模：1校区、小規模&標準規模：9校区、小規模&大規模：3校区

標準規模&標準規模：5校区、標準規模&大規模：6校区、大規模&大規模：2校区

（小規模・・・11クラス以下、標準規模・・・12～18クラス、大規模・・・19クラス以上）



テーマ1 学校の規模・配置において検討すべきことについて（論点Ⅱ）

第1回懇話会における主な意見（要旨抜粋）【論点Ⅱ関係】

- ① 堺市小規模校基本方針は（現在の状況と照らし合わせて）発展的に解消していく内容。
小学校の再編としては、原則として1中学校2小学校を維持できていなかったり、学校規模が24学級を超えないとあるが、今ある大規模校でもうまくいっているケースもある。
その状況に合わせて一つ一つ検討していく必要性がある。
もう少し柔軟に考えて、堺市全体として見る一方、個別の校区や地域の特徴などを加味するなど、物理面・教育面・文化面を統合して検討していくことが大切と思う。
- ② 堺市の通学圏は、地方と比べて概ね遠いところがない、交通の便が良いことがメリットである。
- ③ 小規模校基本方針が策定されたのは平成14年で、これは変えないといけない。
今の状況に合わせた小規模校基本方針を設けて、それから議論していくべき。
この基本方針を基に議論するのは違う。

テーマ1 学校の規模・配置において検討すべきことについて（論点Ⅱ）

- ④ （再編について）この場で簡単に続くような方向性を出すことは難しい。
柔軟に進めながら、何年か過ぎたら再度考えなければいけない問題。
見えている範囲では考えなければいけない問題。
- ⑤ 堺市では、学校配置をオール堺で決めているため、その良さがある反面、柔軟性がなければ同じ土台でしか話ができないと思う。
その部分について整理をしつつ、状況に合わせるということが、最後はこどもたちのためになる。
こどもたちの状況に合わせて再編を進めていくことが必要。